

## 若鮎Ⅲの運航再開に向けた訓練内容について

### 1 実機訓練期間

8月5日（水）～9月30日（水）

### 2 訓練の目的

若鮎Ⅲの円滑な運航再開のため、昨年度の運休以来、長期間にわたり若鮎Ⅲにおける救助等活動を実施していない消防航空隊員、操縦士、整備士の訓練を行う。

### 3 訓練計画

#### (1) 訓練予定時間

計 5 3 時間

#### (2) 訓練内容

○救助・消火訓練 計 4 2 時間

・救助訓練（参加者：消防航空隊員、操縦士、整備士）

訓練名	内容	時間
基礎教育訓練	サバイバースリング、エバックハーネス、パーティカルストレッチャーを使用した基礎訓練（各 3 時間）	9
実務教育訓練	サバイバースリングを使用した応用訓練（3 時間）、エバックハーネス、パーティカルストレッチャーを使用した応用訓練（各 9 時間）	2 1
強化教育訓練	山岳総合訓練	1. 5



サバイバースリング：要救助者に装着して垂直状態で吊り上げ



エバックハーネス：要救助者に装着して水平状態で吊り上げ



パーティカルストレッチャー：要救助者を救助用担架で固定して吊り上げ

・消火訓練（参加者：消防航空隊員、操縦士、整備士）

訓練名	内容	時間
基礎教育訓練	消火バケツを使用した訓練	3
実務教育訓練	消火バケツ操作技術向上訓練	3
強化教育訓練	林野火災に係る総合防災活動	4. 5



消火訓練：バケツを装着し、水源に浸して給水、放水スイッチを操作して放水

※ 消防航空隊員は、今年度の編成となってから、計38時間の実機訓練（救助・消火訓練）を行い、若鮎Ⅰでの緊急運航に従事している実績あり。

若鮎Ⅲについても、上記のとおり42時間（うち4時間は予備）の訓練を実施すれば、同等の訓練練度は十分に確保できるものとする。

○整備士の慣熟訓練 1. 5時間（参加者：整備士、操縦士、消防航空隊員）  
整備士の搭乗訓練を行い、ホイスト等装備品の整備状況の確認等を実施。

○操縦士訓練 9. 5時間（参加者：操縦士）  
これらの訓練のほか、操縦士の慣熟訓練等を一定時間実施。

### （3）訓練練度の評価

上記の訓練の後、安全管理者が訓練練度を評価した上で、評価を基に管理者（防災課長）が緊急運航の再開可否を判断する。

## 4 緊急運航再開以降

10月1日（木）～10月25日（日）

引き続き、強化教育訓練として山岳総合訓練、水難総合訓練等の訓練を計画、実施しながら、緊急運航に対応していく。